

R

RITSUMEIKAN
UJI
JUNIOR AND SENIOR
HIGH SCHOOL

GUIDE BOOK 2025

RITSUMEIKAN UJI

JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

立 命 館 宇 治



学んだぶんだけ、
世界が近くなる。

Your Link to the World

教育目標 Mission Statement

立命館宇治中学校・高等学校は、立命館の建学の精神「自由と清新」と教学理念「平和と民主主義」に基づき、卓越した言語能力に基づく知性と探究心、バランスのとれた豊かな個性、正義と倫理に貫かれた寛容の精神を身につけた未来のグローバルリーダーを育成し、世界と日本の平和的发展に貢献する。

スクールコンセプト School Concept

先駆者を楽しめ!!

～ワクワクであふれる学校へ～

理想とする人間像 The Learner Profile

- 究** 探究する人
Inquirers
- 知** 知識のある人
Knowledgeable
- 考** 考える人
Thinkers
- 話** コミュニケーションができる人
Communicators
- 義** 信念を持つ人
Principled
- 寛** 心を開く人
Open-minded
- 仁** 思いやりのある人
Caring
- 挑** 挑戦する人
Risk-takers
- 健** バランスのとれた人
Balanced
- 省** 振り返りができる人
Reflective



アリーナ

第2グラウンド

テニスコート

人工芝グラウンド

バス停

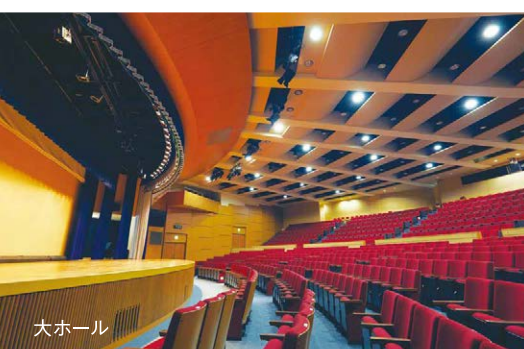
正門



Ritsumeikan Uji CAMPUS

おー！

初めて本校を訪れた親子は、キャンパスに足を踏み入れた途端に声をあげます。本校の校舎は、道路からの高台に建っており、外から学校の様子は見えません。バス停から階段を上がったところに広がるのは、まっすぐに伸びたプロムナード、人工芝で年中みどりに包まれたグラウンド、ゆるやかな曲線を描く2つの校舎とC棟。皆さんの学校生活を彩る舞台です。



大ホール

図書室

作法室

コミュニケーションラウンジ

C棟 ラウンジ

メディアルーム

数字で見る立命館宇治

立命館宇治は、生徒が世界で活躍できるように、最先端の教育を展開し、進化し続けています。



多様な進学先

(2023年度卒業生)



立命館大学

推薦
制度

369人

立命館アジア
太平洋大学(APU) 5人

海外の
大学

世界大学ランキング

100位以内の大学 16校に合格

私立
大学

上智大学、早稲田大学、
慶応義塾大学、東京農業大学、
大阪歯科大学、国際基督教大学など

国公立
大学

岡山大学、
神戸市外国語大学

多様な生徒構成



帰国生比率 20%

※入学前の最終滞在国・地域: 41か国・地域

関西2府4県以外出身者

京都・大阪・兵庫・滋賀・
奈良・三重・愛知に広がる通学圏

84人

多様な教員陣



外国人教員 39人

※アメリカ、カナダ、オーストラリア、フィリピン、ロシア、トリニダード・トバゴ、
ハンガリー、ウルグアイ出身

日本人教員は、シンガポールや英国で教えたことのある教員、エンジニアやテレビディレクターとして勤務した教員が在籍

活発な課外活動

全国大会出場クラブ 9クラブ(2023年度実績)

高校硬式野球部 (夏)

甲子園出場

高校アメリカンフットボール部

全国大会優勝

高校陸上競技部

女子駅伝
全国大会 3位

高校バトントワリング部

全国大会金賞

○ 高校女子柔道部 全国大会ベスト16

○ 高校チアリーダー部 全国大会出場

○ 高校女子ラクロス部 全国大会出場

中学アメリカンフットボール部

全国大会準優勝

中学バトントワリング部

全国大会金賞

先端の教育環境

学内に完備

Wi-Fi

図書室の蔵書数(DVD含む)

56,630冊



海外への1年間留学



累計約 1,000人

保護者の方に
聞きました



施設・設備が
整っている

97.7%

教職員は、生徒のことを
よく考えて指導している

86.0%

部活動や生徒活動が
活発に行われている

95.8%

国際交流や留学など、国際的な
取り組みが充実している

94.3%

他の人(知り合いなど)にも
薦めたい学校である

88.5%

わが子を入学させて
良かったと思う

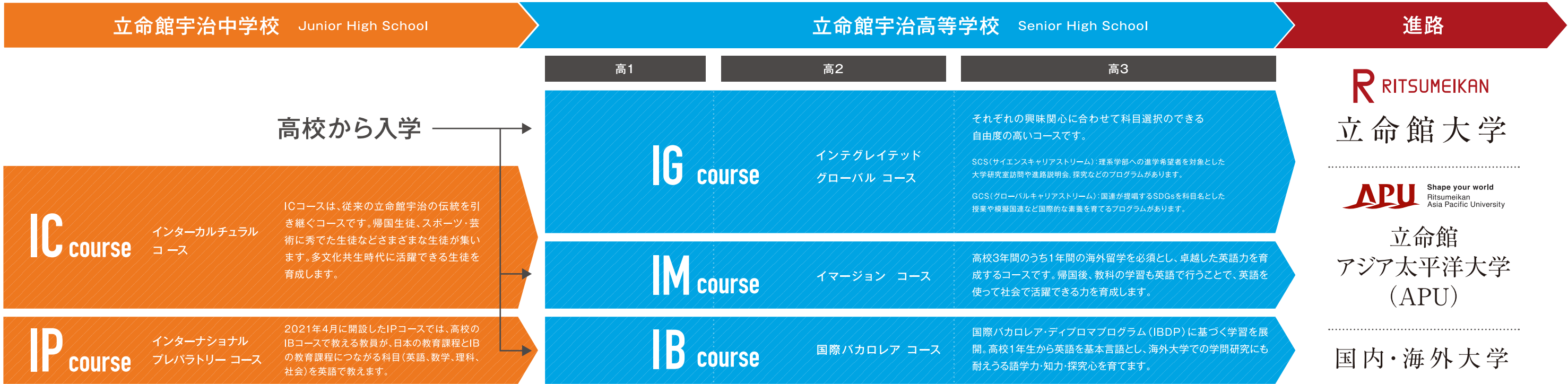
94.9%

わが子は、学校のことを
誇りにしている

89.4%

立命館宇治の多彩な進路

立命館宇治中学校・高等学校が実践する、従来にない国際型一貫教育。
大学まで視野に入れた独自のカリキュラムによって社会で生きる力を身につけ、多彩な進路を切り拓きます。



2023年度
海外大学合格実績 のべ **71**人 合格大学数 **52**校

		THE World University Rankings 2024 順位
Imperial College London	イギリス	8
University of California, Berkeley	アメリカ合衆国	9
Columbia University	アメリカ合衆国	17
University of Toronto	カナダ	21
University of Edinburgh	イギリス	30
University of California, San Diego	アメリカ合衆国	34
University of Hong Kong	香港	35
University of Melbourne	オーストラリア	37
King's College London	イギリス	38
McGill University	カナダ	49
Monash University	オーストラリア	54
University of Sydney	オーストラリア	60
Washington University in St. Louis	アメリカ合衆国	68
University of Queensland	オーストラリア	70
Boston University	アメリカ合衆国	78
University of California, Irvine	アメリカ合衆国	92

(※)2024年5月15日現在

国内他大学等進学実績(主な進学先) **29**人

岡山大学	上智大学	早稲田大学	慶応義塾大学	東京農業大学	大阪歯科大学	国際基督教大学
関西医科大学	兵庫医科大学	青山学院大学	明治大学	神戸市外国語大学	京都外国語大学	関西大学

他

京都から未来のグローバルリーダーを育成

2023年度の卒業生のうち14人の生徒が海外大学に進学します(※)。中でも、インペリアル・カレッジ・ロンドンやカリフォルニア大学は、THE世界大学ランキングトップ10の大学です。

十年後につながる多彩な進路

立命館大学



R RITSUMEIKAN

京都府、滋賀県、大阪府の3府県に人文・社会系から理工系まで幅広い分野の学部・研究科を擁する総合大学。

立命館アジア太平洋大学



APU Shape your world
Ritsumeikan
Asia Pacific University

在学生約6,000名の約半数が世界106カ国・地域からの国際学生です。APUの学びのフィールドは「世界」。

進学実績 (2023年度実績)

立命館大学
369人

- 法学部 ……29

● 産業社会学部 ……59

● 国際関係学部 ……29

● 文学部 ……39

● 映像学部 ……11

● 経営学部 ……57

● 政策科学部 ……31

● 総合心理学部 ……22
- グローバル教養学部 ……6

● 経済学部 ……26

● スポーツ健康科学部 ……9

● 食マネジメント学部 ……17

● 理工学部 ……5

● 情報理工学部 ……23

● 生命科学部 ……2

● 薬学部 ……4

立命館アジア太平洋大学(APU) **5**人

- アジア太平洋学部 ……1

● 国際経営学部 ……4

● サステイナビリティ観光学部 ……0



自分の「好き」ととことん追求できた立命館宇治は私の人生にポジティブな影響を与えてくれました。

地球温暖化が昆虫の生態に与える影響をテーマとして、IBの集大成となるEE(研究論文)を昆虫学者の協力を得て書きあげたことは、私の進路を決定づける特別な経験となりました。先生方も実験計画や論文執筆など、さまざまな面で研究活動を応援してくださいました。

中学ではIPSコース(現IPコース)で学びながら、日本舞踊や茶道などの日本文化に触れ、合唱コンクールや演劇などの行事を経験することができました。高校では忙しいIB生のスケジュールに理解があり、吹奏楽部を中高6年間続け、大切な仲間を得ることもできました。現在大学でも多くの仲間たちと吹奏楽を楽しんでいます。昆虫も、音楽も、私の好きなことを思い切りさせてくれた立命館宇治の環境は、私の人生にとってもポジティブな影響を与えています。



中高一貫校で英語を教えながら、大学院で英語学習法を研究中です。

私は、立命館宇治高校の3年間で、さまざまな課外活動に参加させていただきました。特に、日本・中国・韓国の3か国の中高生が交流するキャンプや、中国語スピーチコンテストの世界大会、カナダでの短期留学などの国際活動を通して、視野を広げることができました。また、授業の中では正解のない問題について考える力や、自分の考えをわかりやすく伝える表現力を伸ばすことができました。現在は、中高一貫校で英語科教員をしながら、大学院で英語学習法の研究をしています。高校3年間で培った海外経験や論理的思考力が現在のキャリアや研究活動に活かされています。



生涯のテーマと出会えた社会の授業。大きな夢を与えてくれた先生に感謝！

高校時代で一番印象に残っているのは、社会課題の解決に取り組むNPOや学生ボランティア団体関係者を招いて話を聞くという社会科の授業です。そこで知った「日本の難民問題」は、私の生涯のテーマになりました。初めて「もっと知りたい」という思いが芽生えた私は、国内外の大学院進学を経て、現在はドキュメンタリー映像専門の制作会社で働いています。いつか日本の難民問題を取り上げたドキュメンタリー映画を作りたいと考えています。自分に大きな夢を与えてくれた授業と先生に心から感謝しています。



さまざまな国の価値観や文化を尊重し、協調する力がグローバルビジネスに生きています。

私はIBコースに進学し、日中は英語の環境で授業を受け、放課後は吹奏楽部の仲間と練習に励む日々を送っていました。そんな生活の中、海外特有の価値観や文化、日本特有の価値観や文化に触れ合う機会がたくさんありました。そして両方の文化を尊重し、世界中の人々と協調する力が身についたと考えています。

現在は鉱山車両用タイヤが使用される豪州の現場から、タイヤの性能課題を見つけ出し、日本の本部と協力しながら価値を創出・向上する仕事をしています。さまざまな人々との協調が必要不可欠であり、高校で培った力が大きく役立っています。

Message from Graduates

卒業生からの
メッセージ



WOWプログラムでITに興味を持ち、現在はサイバーセキュリティ団体の代表！

私は立命館大学情報理工学部 に所属しており、サイバーセキュリティに関する団体の団体長をしています。中学のWOWプログラムがきっかけでITに興味を持ち、この分野に進みました。高校時代は生徒会長として「開拓」をスローガンに掲げ、興風祭での新企画立ち上げや生徒会TVの創設、難民を支援する活動を行いました。同じ志を持つ仲間と出会い、挑戦を応援して下さる先生と出会い、企画と本気で向き合い実現させる過程を通して、夢をカタチにする達成感を味わいました。立命館宇治は、私にとって可能性を「開拓」してくれた場所だと感じています。



可能性を広げ、新しいことに挑戦！学びや体験の全てが今に生きています。

カナダでの留学経験や課題解決型の研修旅行、仲間と共に創り上げた国際会議などが、印象に残っています。自分がしたいことを後押ししてくれる環境があり、どんな新しいことにも挑戦することができました。自分の可能性を広げ、新たなことに挑戦することの大切さを学びました。そのような経験を背景に、私はより幅広い知識と新しい視野を得たいという思いから、立命館大学グローバル教養学部に進学しました。そして今、オーストラリア国立大学でアジア太平洋学を学んでいます。立命館宇治で培った英語力やコミュニケーション能力、そして挑戦する意欲が、私の留学生生活をより充実したものにしてくれています。



意思と目的を大切にする学びの体験が「描きたい未来」に向かう原動力。

2000年のImmersion Program(現：高校IMコース)1期生だった私は、NZへの留学も含めて英語漬けの青春時代でした。「英語は道具だ」と話す当時の副担任だったアメリカ人の先生の言葉は、今も私のなかで強く残り続けています。正しい英語を話す能力以上に、「英語を通して何を伝えたいのか」という意思と目的を持つことが大事だと学びました。現在、デジタルの力で障害者のリハビリを楽しくするグローバル企業で働いており、世界の仲間達と英語を通して「障害者の社会参画」に取り組んでいます。自分自身がめざす描きたい未来に向かって走り続ける原動力に、高校時代の学びが活きていると強く実感します。



型破りな活動を支える自由な校風。成功体験の連続が揺るぎない自信に！

私は高校に入學してすぐに生徒会に参加し、3年生では生徒会長を務めました。多くのコースや自由な校風、それから自分の性格ゆえに型破りな提案と活動をしていたと思います。しかし、学校にはどれも常に前向きに「なぜそう考えたのか」、「どうすれば実現するか」、と一緒に考え、私の自由な挑戦を応援して頂き真剣に取り合ってもらいました。初めは人前に立つのも緊張して声も裏返り、震えていたものですが、活動していく中での成功体験が重なり、堂々と話せるようにもなりました。そういった経験が今の私の挑戦心を育て、自分自身を信じて行動する力をつけることに大いに寄与していると思います。

Message from Principal



Your Link to the World

～学んだぶんだけ、世界が近くなる。～

今、世界はかつてないスピードで変化しており、私たちは環境変動、経済の格差、国際的な紛争といった数々の複雑な課題に直面しています。これらの課題は、地球規模での連携と持続可能な解決策を必要としています。私たち一人ひとりが、グローバルな視点を持ち、互いに対話と協力を通して問題解決に取り組むことが求められています。

多様な文化や価値観を理解し、異なる立場の人々と建設的な議論を展開することは、今日の国際社会において不可欠です。立命館宇治中学校・高等学校では、高い理想と社会的責任を胸に、さまざまな課題に挑戦する勇氣と力を育みます。私たちは、違いを尊重し、共通の目標に向かって協力する力、そして公平かつ公正な判断ができるリーダーを育成することをめざしています。

ここでの学びは、理解と共感を深め、多角的な視点を養うための場です。知識だけでなく、それをどう活用するかを学びます。気づきが視野を広げ、世界への理解を深めることで、あなた自身の未来だけでなく、社会全体の明るい未来を形作ることに貢献します。未来はあなたの行動と気づきによって創られます。立命館宇治で共に成長し、新たな一歩を踏み出しましょう。

立命館宇治中学校・高等学校 校長 越智 規子

熊谷 向祐 先生
中学教頭

安心して「出る杭(くい)」になれる場所。

立命館宇治中学校の辞書に、「出る杭は打たれる」という言葉はありません。ここは「出る杭は応援される」学校です。興味を掻き立てられる授業、心一つにみんなで燃える学校行事、仲間との絆を育む部活動、他にないホンモノ体験ができる多種多様なプログラム。これらを経て、1人1人が自分らしさを開花させ、誰しもが「出る杭」になることができます。そして誇りに感じることは、学校が「誰かのために」という精神にあふれていることです。みなさんが何かにチャレンジするときは、必ず周囲の仲間が応援してくれます。困ったときは、手を差し伸べてくれます。立命館宇治中学校は、安心して自分らしさを発揮できる、誰にとっても居心地のよい場所なのです。

西原 丈人 先生
高校教頭

失敗を恐れる必要のない環境があります。

「失敗することを恐れずに何事にも挑戦しよう!」さまざまな場面で使われる言葉ですが、この言葉だけを聞いて、失敗を恐れずに挑戦できる人がどれくらいいるでしょうか?本校の在校生や卒業生は、失敗を恐れずに果敢に挑戦して成功している人たちが多くいます。その理由は、教職員が冒頭のような言葉をかけ続けているからではなく、「安心して失敗できる環境」が整っているからだと自負しています。本校には、国際大会や全国大会で活躍するアスリートやアーティスト、幼い頃から海外で生活してきた帰国生、海外大学進学をめざす生徒、在学中に留学を経験する生徒など、多様性に富んだ生徒たちがいて、互いに刺激を受け合い、認め合い、許し合って生活しています。その中で相手を尊重する精神と「失敗しても大丈夫」という安心感が培われていくのです。さあ、みなさんも「安心して失敗できる環境」で学び、「挑戦」しましょう!

好奇心を起動させる個性あふれる教師陣

先生からのメッセージ

THOMAS
Matthew 先生
IBDPコーディネーター

Unlock Your Potential: Thrive in Our Leading IB Program.

With fifteen years of experience offering IB, we believe we have the premier IB program among Japanese schools in the country. Our IB Course is a holistic three year program that given students the opportunity to receive both a Japanese high school diploma and a coveted IB Diploma. Along the way, students will learn research skills, critical thinking skills, and develop personally and as young leaders poised to make a difference in the world. Graduates from our program have gone on to study at top colleges and universities in Japan and around the world and to work in a diverse range of fields. Our promise to you is that the teachers and staff of our IB Course will work every day to provide world-class instruction and support to ensure you maximize your time with us. Our hope is that you will not only excel academically, but also find your niche in our vibrant and growing program. We look forward to working with you.

高野 阿草 先生
IM教育部長

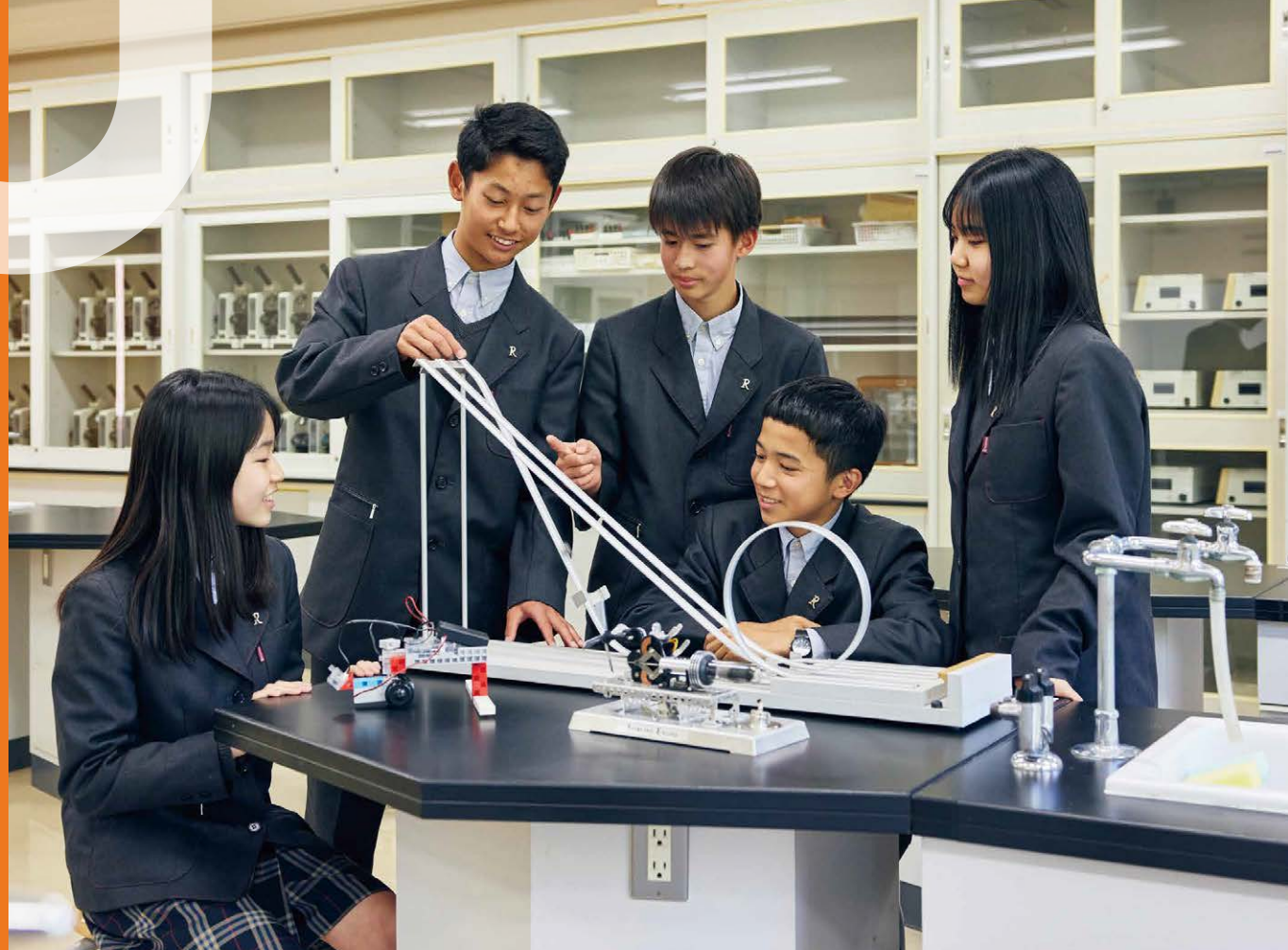
想像を超える自分に遭遇しましょう。

「Beyond Yourself」3年間、IMコースの生徒たちが何度も自分に言い聞かせる言葉です。英語を実用レベルで話している人口は世界人口の25%。4人に1人が英語を使用していると言われていて、そんな時代だからこそ英語を話せるようになりたいと考える人は多いはず。しかし、IMコースのゴールは留学ではありません。留学で得た経験と身につけた英語力を活かし、平和な世界を自らの手で築くために行動できる人。それがIMの目指すゴールです。留学後にはMUN、新興国でのインターンシップ型研修旅行、GLS等、自分の視野を広げ、実力を磨くためのチャンスがたくさんあります。高い志を持つ仲間と共に、自分の想像を超える自分と出逢う学びができる。それが立命館宇治のIMコースです。共にワクワクと幸せであふれる世界を創りあげましょう!

学力と人間力の
基礎を鍛える

中学校

J U N I O R H I G H S C H O O L





IC course

中学コース



多様な学びを通して、探究力を育む



「自走する中学生に」

立命館宇治中学校は2022年度に創立20周年を迎え、その節目を経てさらに教育の質を高め、進化を続けています。ICコースでは、ICTを活用した教科学習の強化はもちろん、TOK道徳や総合学習（1年：日本文化講座、2年：木工、3年：演劇）など、多岐にわたる学問を横断して学ぶ機会を提供しています。また、WOWプログラムを通じて、生徒はホンモノの体験をもとに、自らの興味・関心を広げ、多様な視野を持つようになります。

中学教育の核となるリーダーシップの育成と自主自立の精神は、本校の教育方針の中心にあります。3学期の終わりには、各学年、生徒が主体となる「まとめの活動」があります。この期間中、生徒たちは過去の振り返りと次年度の目標設定を行い、クラスや学年全体でさまざまな企画を自分たちで考え、企画にしています。企画の準備は12月から始まり、昼休みを利用しての日常的な会議が自立心と協働の精神を育てます。1年生時には教員の手厚いサポートを受けることが多いですが、3年生になると、どんどん教員の手から離れて「自走する集団」へと成長していきます。周囲を巻き込みながら中学の完成形をめざす彼らの姿を、私たちは大変頼もしく思います。

POINT 01

伸び伸びと大きく成長する3年間

中学は6クラス構成で、2～6組の5クラスがICコースです。現在の1年生は22期生で、20年以上の歴史を持つこのコースは、伝統を守りつつも革新的な進化を続けています。多様性が一つの大きな特徴で、国内外のさまざまな背景を持つ生徒が集まっています。スポーツ・文化活動の才能を持つSA生徒や、海外生活の経験を持つ生徒も多く、相互理解と尊重の文化の中でそれぞれが自身の可能性を広げています。

授業ではICTを積極的に活用し、生徒に多様な学びの形式を提供しています。リサーチ活動、グループワーク、プレゼンテーションといったプロジェクトが多く、新入生はその活動の豊富さに驚かされることでしょう。英語教育においては、レベル別の授業が設定され、全生徒が適正な環境で英語力を伸ばすことが可能です。ネイティブの教員との距離が近いことも、英語学習の大きな利点です。

学校行事は生徒の熱意が特に高く、体育大会や合唱コンクールではクラス全体が一丸となって優勝をめざします。これらの行事を通じて、団結力と協調性を育む重要な機会となることはもちろんですが、単に競い合うこと以上に、学年・学校全体をみんなで盛り上げる気持

ちが強いことを私たちは誇りに思っています。また、3年生の夏にはオーストラリアでの研修旅行を実施し、2週間のホームステイを通して、生徒たちは英語力の向上はもちろん、自立した生活を送るための重要なスキルを身につけます。この経験は、学生生活の集大成として、彼らの自信と世界観を形成する貴重なものとなります。



Student's Voice

山下 惺さん
橿原市立真菅小学校出身

初めて見たときは、小学校にはなかったさまざまな施設や広い校舎があることに驚きました。小学生の時に、人工芝のとても大きい第一グラウンドを見て、感動したのを覚えています。

幼いころにインドネシアに住んでいた経験もあり、将来も海外で仕事に就きたいと考えています。そのためにも、学校で将来のために日々勉強に取り組んでいます。総合のQuestの授業では、動画作成やパワーポイントでのプレゼンテーションなど楽しく活動しています。



POINT 02

基礎学力を伸ばす5つの「スタディスキル」



高校や大学で高度な研究を行い、応用をつけていくための基盤となる基礎学力を鍛えます。英語検定や漢字検定など、客観的な評価基準に照らして到達目標を定めることで、モチベーションも維持します。中学校でのバランスの取れたスタディスキルの習得が、高校での学習に活かされます。



英語

谷 英樹 先生



自分の言葉で表現してみよう！

人工知能や翻訳の機能が精度を上げて、日本語を打ち込めば英語に簡単に変換してくれるこの時代になぜわざわざ英語を学ぶのか、生徒たちが一度は疑問に思うことです。しかし変換された言葉には自分の思いが込められていません。1つのことを表現するにも表現の仕方はさまざまです。自分たちが学んできたことから、自分で言葉を紡いで、それが伝わったときの嬉しさを味わってこそ、初めて語学の楽しさを感じることができのではないのでしょうか。立命館宇治中学校では3年生の夏休みに2週間、オーストラリアへ研修旅行に行きます。そこで「伝わった！」の喜びをたくさん味わうために、日々の授業では自分の気持ちや考えを自分の言葉で表現する時間を大切にしています。

国語

中村 華 先生

答えは一つじゃないから難しい。
けど、この考えも面白い！

授業で、生徒がつぶやいた言葉です。私たちが大事にしているのは、語彙力や読解力を身につけることだけではありません。それと同じくらい、言葉を通して自分の考えを発信したり、他の人の考えを受け入れたりすることを大切にしています。自分の考えを持ち、相手に正確に伝え、相手から新しい考え方を受け取る。これが、コミュニケーションの力です。自分とちがう考えを知り、得る気づきこそが、新しい視野を育みます。授業では文学作品や古典作品を扱い、言葉やストーリーが持つ力を感じながら、新しい世界や、知らなかった時代にどんどん飛び込み、内面を豊かにします。小論文やスピーチ、プレゼンテーションの授業では、日本や世界のさまざまな社会問題に目を向けて、論理的に思考し、意見を正確に表現するための力を育てます。常に問うのは、「あなた自身の意見は何？」そして「他の人の考えを聞いて、どのように考えが広がった？」ということ。コミュニケーションの力をしっかりとつけながら、自分の可能性や世界を広げましょう。

社会

大井 喜代 先生



時空を超えて世界を知ろう！

私たちが「未来を信じ、未来に生きる」ためには、過去を学び、地球規模で世界を学ぶ多角的な視点が必要です。立命館宇治中学校の社会科ではICTを活用して、科目や分野を超え、時間や空間を超えた幅広い知識と思考で、物事の本質を見抜く力を養っていきます。地理では地理情報システムや茶摘みの体験などを通して宇治地域の特徴を考え、歴史的背景には何があるのか、身近な地域と世界がどうつながるのかを考察します。生じた疑問は大切に、主体的に学ぶ力を身につけます。また、発表や議論の機会を多く設け、意見の違いを尊重しつつ、そこから見える「気づき」も大切にします。みなさんの行動が未来の世界を築いていきます。豊かな知識は、大切なあなた自身を、家族を、地域を、世界を守ります。さあ、知識を携えて、世界に、そして未来に羽ばたこう！

保健体育

木下 裕介 先生



みんなの理想の生活ってどんなものですか？

立命館宇治中学校では、みなさんが健康で楽しく毎日を過ごせるよう、保健と体育の授業に力を入れています。保健分野では、みなさんを取り巻く環境の中で、自分の目標を持ち、生きがいや満足感といった生活の質(Quality of Life)を大切にしたい生活が送れるように学んでいます。また体育分野では、運動することで自分の心身のことを知り、さまざまなスポーツを通して心を動かされたり、人と人とがつながる尊さを知ることができます。運動は、強くて健康な体をつくるだけでなく、心を豊かにし、生活の質を向上させてくれます。保健と体育を通して、心も体も元気になる知識と技術を身につけましょう。

Subject Guidance

理科

福島 賢 先生



ただの暗記科目でないことがわかりました！

「理科は深く考えれば考えるほど難しい質問が出てきたのでとても面白かったです。」これは1年間を終えて生徒たちが書いた振り返りの言葉です。人は新しい出会いを通して、これまでの価値観が大きく変わります。立命館宇治中学校で理科を学んだ1年生の90%以上の生徒が1年間を通して理科が好きになった、嫌いではなくなったと答えています。「実験は間違ってもあって嫌だと思っていました。けれど、間違えることは悪くないとわかったので実験がもっと好きになりました。」「教科書が魔法の書だということがわかった。」「目には見えないけど力がはたらいていることに驚きました。私のお気に入りには目に見えない力を観ることです。」多くの偉人が人生をかけて探究したことがまとめられている教科書を読み解き、偉人たちが行ってきた実験や観察を経験することで、これまでとは違うものの見方、考え方を得ることができ、日常生活が一変します。みなさんも先輩たちのようにそんな体験を立命館宇治中学校でしてみませんか？

数学

瀬野 智也 先生



何のために数学を勉強するのですか？

何のために数学を勉強するのでしょうか。素早く計算できるようになるためでしょうか。図形の面積や体積を求められるようになるためでしょうか。難しい入試問題を解けるようになるためでしょうか。もちろんこれらの技能を身につけることは、数学を学ぶ理由の1つです。しかし、それだけではあまり将来の役に立ちません。公式を学ぶ際は、公式を丸覚えするのではなく、なぜそのような公式で計算できるのか体験的に学ぶことで、新たな計算も自らの手で解決できる力を身につけます。また、数学の問題を解くときには、解決したい課題は何なのか明らかにし、解決するために何をすればよいのか、筋道を立てて考える力を身につけます。数学を学び、数学を活かせるようになります。

音楽

福原 教恵 先生



これって、どんなリズムですか？

音を聴いてリズムを口ずさんで再現したり、楽譜を見てリズムを読み取ったりするなど、どうなってるの？どうやればできるの？と疑問を理解することから学びが始まります。私たちの生活の中には音があふれています。作曲家によって作られた曲、生活の中で生まれる音を私たちは音を聴いて記憶し、何を表現しているのか、何を感じるのか、耳をすませ、心を動かしていきます。音楽は個人の技量を高めることもあれば、集団だからこそ楽しめる音楽もあります。立命館宇治中学校では11月に「合唱コンクール」が開催されます。音楽づくりの源でもある自分の声を使って、一緒に音を奏でる喜びや響きの美しさを体感して、演奏していきます。さらに、言葉を理解し、想像して、表現力を高めていきます。美しい音を求めて、一緒に学んでいきましょう。

美術

熊本 恭子 先生



「美」とは何ですか？

立命館宇治中学校の美術は、「美に関する古今東西の知識・技術」の学びです。彫刻・絵画・庭園・建築はもちろんのこと、日常の食事にもさまざまな「美」があふれており、それらを学ぶことで不思議と、それらの美を造り出した人々の考え方に触られます。この考え方がとにかく面白いし、意外な視点にも気づかされます。そして、さまざまな制作に取り組む事で、表現力が身につきます。課題は年によって変化しますが、人体クロッキー、写生、針金で生き物を作ったり、物語の登場人物を描いたりもします。また、日本のお弁当文化からも美を学び、自分でデザインしたお弁当を粘土等で作ることもします。制作材料も水彩、油彩、粘土、模型材料、針金、紙、藍、絹、墨と多種多様な材料を、課題に合わせて使用します。いっしょに「美」について学びましょう。



IP course

中学コース

京都で育む IB Learner

IPコースでは、高い意欲で自ら学び、挑戦することを楽しむ生徒を歓迎します。しかしながら、学力や英語力の高い生徒を育成することだけがIPコースの目標ではありません。国際的に活躍する素地を身につけながら、一人ひとりの心に日本の文化が根づくことを大事にしています。学校の立地を活かして行われる日本の文化や伝統を学ぶ活動を通して、また、日本の学校ならではの行事を通して日本の慣習を経験し、尊重する心を育みます。IBコースで学ぶ土台を身につけるだけでなく、日本の心を持ち、多様なものに心を開く生徒の育成をめざしています。



高度な英語力を鍛え、 IBコースをめざす



「JAPANマインド × IBの礎」を学ぶ

本校では2021年度にIPコースを新設しました。IPコースとは高校IBコースに直結するコースで、高度な英語力を備えた生徒が高い学習意欲を持ってさまざまな学習をします。数学・理科・社会・英語のIP科目は高校IBコースを担当しているネイティブ教員が英語で指導します。3年間の学びにより、高校IBコース進学後にスムーズなステージ移行が可能となるのが最大の魅力です。また、行事(体育大会・文化祭・合唱コンクール)や総合学習^{*}、学年の活動においては、IP・ICコースがいっしょに取り組むため、多くの仲間と団結し、日本の文化を学びながらIB進学の素地をつくっていくことができます。

また、同じキャンパスに中学IPコースと高校IBコースの縦のつながりがあることにより、安心した環境で学びを継続することができます。IPコースは、日本人担任とネイティブ担任(IB教員)のデュアル担任制となっており、より細やかに学習面・生活面をサポートします。

^{*}総合学習(1年:太鼓・日本舞踊・茶道・陶芸・書道 2年:木工 3年:演劇)
^{*}国語の授業は習熟度に応じてJSL(Japanese as a second language)の受講が可能です。

POINT 01 琵琶湖トリップ BIWAKO Trip



IPコース全生徒の一体感を生み出す!

BIWAKO TRIPはIP3学年全員が楽しむ企画です。毎年1学期の期末試験後に琵琶湖に行きます。企画は主にIPC委員(IPコース独自の自主活動グループ)が中心となって進めます。カヤック体験ではクラスの中でペアを決めたり、バーベキューでは3学年をシャッフルしてグループを作ったりすることで、クラスの親睦が深まり、またIPコース3学年の縦のつながりも強くなります。普段はアカデミックな取り組みに奮闘している彼らが、自然の中で、全力で楽しむ姿がとても印象的なイベントです。オンとオフをしっかりと切り替えて生活している生徒たちの様子を教員も微笑ましく見守っています。

Student's Voice

建口 結美さん
光華小学校出身

IPコースでは、数学、理科、英語、社会を英語で学びます。海外経験のない私にとっては、毎日が新鮮な体験で不安なこともありましたが、友達や先生のおかげで楽しい毎日を送っています。私は将来海外の大学に進学して、ビジネスを学びたいと思っています。社会の先生はよく世界の政治やグローバルな話をしてくださるので、将来へのモチベーションが高くなります。自主活動にも積極的に支援してくれる学校なので、私は現在学校からいただいた支援金でコンボストに挑戦しています。これからも、いろいろなことに挑戦し、将来につなげていきたいです。



POINT 02 SCAVENGER RACE & 宇治ウォークラリー Uji Walk Rally

高校IBコースの先輩との交流イベント!

10月に実施している、スカベンジャーレースと宇治ウォークラリーは同日開催です。スカベンジャーレースに参加するのはIPコースの1、3年生と高校IBコースの2年生です。スカベンジャーレースは、学校に隣接した太陽が丘で行われるオリエンテーリングです。IPとIBの生徒が交流するので、先輩からいろいろな高校生活の話聞きながら、楽しむことができる縦のつながりを重視したイベントです。

宇治ウォークラリーはIPコース2年生のイベントです。地元である宇治の魅力を発見するために、各グループで計画してコースを決めて散策します。平等院、抹茶、組み紐、鵜飼、宇治川、宇治上神社など、改めて宇治の魅力に感心したり、意外な発見をしたりすることも…。後

日、発見した魅力について外国人観光客向けにポスターを作ったり、プレゼンをしたりします。この日の最後は、太陽が丘でスカベンジャーレースの生徒と合流し、大縄跳びなど自分たちで考えた企画を楽しみます。



ENGLISH

Teacher. SIM Scott

Language is fundamental to communicating, learning, and thinking. It plays a key role in the development of critical thinking skills, cultivating international-mindedness, and participating in communities at both local and global levels. In IP English, we aim to engage students in the study of many aspects of English language and literature. Students study a wide range of literary and non-literary text types and learn about different writing styles and techniques, allowing them to understand the significance of context, audience, purpose, and the effects of the use of linguistic and literary devices. Student-focused classroom activities develop their skills in six broad areas—reading, writing, listening, speaking, viewing and presenting. Their interactions with texts generate social, political, moral, economic, cultural and environmental insights, and students learn how to convey their opinions, make informed decisions, and engage in ethical reasoning. Regular focused assessment aims to improve students' retention of knowledge and develop their productive and analytical skills. Overall, this course aims to help them develop the study and self-management skills that will prepare them for more advanced studies in language and literature in high school and beyond.



SCIENCE

Teacher. MACKENZIE John

Science is a subject which is learnt by doing, through scientific inquiry and experimentation. This is at the very core of our teaching philosophy in IP Science. We aim to facilitate a safe learning environment which invites students to be curious and inquisitive young scientists. Together, we develop effective strategy to find solutions to real problems through experimentation and research. Regular and rigorous contextualised assessment helps bolster retention of knowledge and ensures student outcomes are aligned with IB expectations.

Through regular lab time in our new dedicated labs, students are exposed to specific practical techniques and will learn to develop both critical and creative thinking skills as they analyse data, draw conclusions, and evaluate working methods. Student led classroom activities, focused on teamwork, collaboration and discussion, arm students with a plethora of other social and academic learning skills, transferable to other walks of life. We hope your child is ready to join us on this journey of discovery as we endeavour to explore the mysteries of our natural world!



MATHEMATICS

Teacher. PULOHANAN Ma. Cristina

In the IP course, students learn about essential mathematical concepts to build their knowledge and skills in preparation for the IB course. The lessons are tailored in a way to promote inquiry and provide challenges so they may enhance their problem-solving and critical-thinking skills. They can then apply these skills to solve problems that are abstract or reflect real-world situations. Students also develop their technological skills through the various programs taught and used in class such as Geogebra to solve problems and model and display mathematics. The IP math curriculum is designed so that it not only covers the required components of a Japanese curriculum but also includes additional material that reflects the IB. The teaching style is also quite different, where the focus is on the students. They are expected to be actively engaged in class and take ownership of their learning. Embedded in the curriculum are five different approaches to learning skills adopted from the IB, such as thinking, communication, social, self-management, and research, to help train students to become more independent learners. For example, IP1 students are assigned to write a paper to reflect on their performance on in a recent quiz. They'll write how much they've prepared or not and what they'll do differently next time. They'll also type the detailed solution to a question that they did well on or struggled with using appropriate mathematical terminology and notation and following the MLA format. By the time students finish the IP course in junior high, they'll be well-equipped to face the demands of the IB math course in high school and beyond.



SOCIAL STUDIES

Teacher. BUTTERFIELD Timothy

Social studies is a field which studies the systems that make up our society. In learning about these systems, we look at human behavior, relationships, resources, and institutions. The main goal of teaching social studies is to help students better understand the world they live in. We are living in a diverse society — one that requires knowledge of social studies to succeed. This subject shows us that humankind, past and present, shares the same basic ideals, feelings, and hopes. Social studies also connects students with the real world. In today's interconnected world, young people must be prepared to interact with people of all cultures and communities, and social studies prepares them for this. IPC students learn skills through social studies that will help them succeed in further education as well as life. These skills include learning skills such as reading, writing, analysis, and critical thinking, as well as skills like improved cultural and real world understanding. IPC Social Studies at Ritsumeikan Uji aims to help you appreciate the importance of studying human society, while developing and how to develop a clear understanding of it. The knowledge and skills you develop in this course will be vital for your future studies in senior high school, particularly if you progress to the International Baccalaureate Diploma Program.



豊かな時間

**アメリカン
フットボール部**
 (部員数51名)

第10回
 日本中学生アメリカン
 フットボール選手権 準優勝

 第78回
 毎日甲子園ボウル
 中学生招待試合 勝利

目標に向かって
 仲間との絆を育む

Activities

共に挑む

**バトン
トワリング部**
 (部員数35名)

第51回
 バントトワリング全国大会 金賞

軟式野球部
 (部員数26名)

令和5年度
 山城《軟式野球》スプリングマッチ
 2023 ベスト4

サッカー部
 (部員数37名)

令和5年度
 京都府中学校
 夏季総合体育大会 3位

アイスホッケー
 〈個人活動種目〉

第4回
 ユースオリンピック冬季競技大会
 女子アイスホッケー 銀メダル

Sports & Culture



ラグビー部 (部員数5名)



陸上競技部 (部員数53名)



女子バドミントン部 (部員数42名)



男子硬式テニス部 (部員数51名)



女子バスケットボール部 (部員数24名)



女子硬式テニス部 (部員数35名)



※本校にはプール施設はございません。
水泳部 (部員数5名)



吹奏楽部 (部員数35名)



茶道部 (部員数20名)



自然科学部 (部員数46名)



書道部 (部員数10名)



美術部 (部員数16名)

SAプログラム (スカラー・アスリート&アーティスト)

「好き」や「得意」を安心して伸ばせるように力強くサポート! スポーツ活動・文化芸能を頑張っている生徒を応援します。
※SA生徒の活動種目は、原則本校部活動にないことが条件となっています。



空手 (陰陽流拳法空手宗本部)



ゴルフ (フリー)



スケートボード (EKL Skateboard Park)



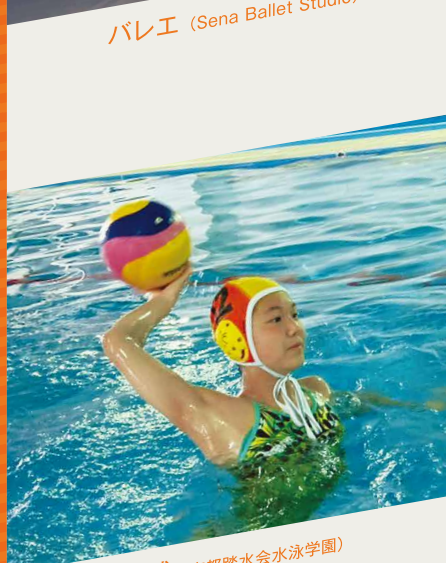
バレエ (Sena Ballet Studio)



水泳 (イトマンスイミングスクール)



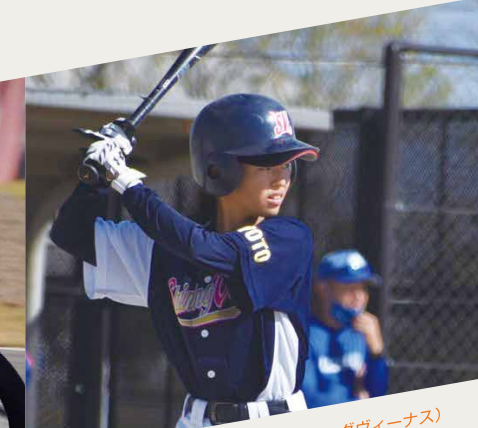
日本舞踊 (宗家藤蔭流)



水球 (京都踏水会水泳学園)



ロードバイク (バイク ホンダ・レーシングスクール・鈴鹿)



女子軟式野球 (京都シャイニングヴィーナス)

校内のクラブ活動やSAプログラム以外で活躍する生徒たち。

個人活動種目

※クラブ活動の運営形態は変更になる可能性があります

One Day

立字治生の1日



登校

8:30



AM
授業

9:50



AM
授業

10:50



昼休み

12:40



PM
授業

13:50



PM
授業

14:50



クラブ

16:00



下校

17:50



Uniform

制服紹介



冬服

赤いステッチや
ピスマークが
ついたブレザー

南 向日葵さん
elc International School 出身



チャコール
グレーの
ブレザー

田邊 瑛太さん
大阪市立開平小学校出身



夏服

チェック柄の
キュロット
スカート

稲見 理沙さん
京都市立桂坂小学校出身



中井 康暉さん
城陽市立久世小学校出身

ネイビーの
スラックス





TOK道徳

違いを楽しみ、
答えが1つではない問いを
楽しめる人になる

立命館宇治の道徳は、答えが一つではない問いと向き合い、議論を通して自分の考えを新たに構築することを大切にしています。人が持つ違いを違いとして理解し、異なる考え方の人にもそれぞれの正しさがあると認め合える関係を築くため、「考え議論する道徳」の授業を展開します。「優しさとは何か」を考える授業では、優しいと思って行動しても相手にとってはそうではない場合や、相手に求めている優しさは相手が思っている優しさではない可能性に気づくことで、自分の行動や言動を改めて考えるきっかけになります。時には3学年をシャッフルしてグループを作り、学年を超えて意見交流することで考えの幅をより広げていきます。



中3 研修旅行

大きく飛躍する2週間

中学3年の夏休みには、オーストラリアでの研修旅行が待っています。そこで2週間、ホームステイと現地校での生活を体験します。普通に考えれば、不安な気持ちの方が勝るプログラムかもしれません。しかし、実際に行く頃になると、中学3年生の表情はワクワク感で輝いてきます。そのわけは、本校中学生は、この2週間を精いっぱい楽しむために、入学以来いろいろな事にチャレンジし、強くなっていくからです。教員集団もここにひとつのゴールを置きながら日々、指導にあたる、中学3年間の学びの集大成の位置づけとなります。生徒たちの満足度の高い、そして完成度も高いプログラムです。



研修例

シンガポール

「最先端の技術と多文化共生の視点から、持続可能な未来を考える」をテーマとして実施しました。水資源確保の先端技術、ゴミ問題解消のためのハイテク焼却場などを見学し、今後の探究学習に生かすことができました。



研修例

ラオス

今回のキーワードは3K(構築・共創・継続)！ラオスの高校生との異文化交流、異文化体験を楽しみ、現地の教育支援を目的としたイベントに参加しました。海外での社会問題を肌身に感じ、次の活動につなげていくリーダーの育成となるプログラムです。

GCP

グローバル・チャレンジ・プログラム

自ら人生を切り開き社会貢献できる人へ

GCP(海外派遣プログラム)とは、自ら人生を切り開き社会に貢献できる人材育成を目的として、国際会議・ワークショップ・ボランティア活動・スタディツアー等への参加などさまざまな国際交流の機会を幅広く本校中高生に提供するプログラムであり、多くの生徒に国際経験を積ませるプログラムです。

総合的な学習

体験を通して感性豊かな心の成長を

3年間の中でさまざまな体験と学びを通して、豊かな心の成長を育む総合学習は本校の特徴の一つです。例えば1年生では、多くの日本文化に触れます。2年生では、大工の棟梁を講師に椅子作りを通して木工の技術を学びます。3年生では「身体表現」の授業として演劇を学び、秋の学園祭(興風祭)でクラスの劇を披露します。



日本舞踊



和太鼓



書道



茶道



陶芸



木工



演劇



茶摘み

授業
ルポ

QUEST

「QUEST」が始まって7年目
進化し続けています



総合的な学習の時間を活用し、「QUEST」と名づけた探究の授業を行っています。1年生は「自分を知る」というテーマで、マインドマップを描いたり、自分のマニアックな事柄を紹介したり、その内容を新聞にまとめたりとさまざまな手法を用いて自分らしさを表現します。1年生の最後には、興味のあるものについてオリジナルの雑誌「ZINE」を作成し、プレゼンテーションを行います。

2年生では「社会とつながる」をテーマに課題研究を行います。各自が問いを設定し、仮説を立て、その仮説が正しいかどうかを実証するため、専門家へインタビューをしたり、研修会に参加したり、自ら実験をしたりとさまざまなアクションを起こします。

過去に最優秀賞を獲得した生徒は、「人間と動物は意思疎通ができるのか」という問いを設定し研究を進めました。動物園の方にインタビューをして分かったことなどを踏まえて、説得力のある結論を導きました。

3年生では「社会を変える」をテーマに、5~6人のグループで、実在する企業の疑似インターンを行います。各企業から与えられたミッションを達成するため、リサーチをしたり、実際に社員さんとミーティングをしたりして、オリジナルの提案を行います。2023年度は、探究発表の全国大会に出場し、優秀賞を獲得したチームが出ました。

この3年間の取り組みは高校での探究授業にもつながります。中高6年間で自らの探究心を深めていけるのも本校の特長です。

興風祭

立命館宇治の伝統行事
力が入る各種発表会



本校の文化祭である興風祭では、1年生は学年展示、2年生は創作ダンス、3年生は演劇を披露します。どの学年の展示もクラスや学年の個性が光り、見応え十分です。

特に3年生の演劇は1学期より専門の先生にご指導いただき、演技の基礎や表現方法などを学びます。興風祭が近づくころにはその学びの成果が十分に発揮され、劇団顔負けの演劇になります。そして最後の舞台が終わった時の達成感や充実感は格別です。

演劇やダンスに一生懸命に取り組む先輩の姿が後輩へと引き継がれ、立命館宇治中学校の歴史が作られていく瞬間がこの興風祭にはあります。

体育大会

体育大会は生徒を成長させる
この上ない行事です

本校の体育大会は6色の団に分かれ、1年生から3年生が縦割りでチームを組みます。赤、青、緑、黄、紫、桃、それぞれの団のハチマキを巻いた生徒たちが学年を越えて協力し、総合優勝をめざします。

そして最も盛り上がり、団結力がはかれるのが応援合戦です。応援団長を中心に一体となって応援する姿は見る者に感動を与えてくれます。

3年生を中心に練習を積み重ねていく中で、1、2年生は先輩の姿に憧れ、その思いは次の代へと引き継がれていきます。



合唱コンクール

クラスのハーモニーを響かせよう！

暑い夏が終わり、虫の声とともに秋の気配が漂い始めると、本校では校舎のあらゆるところから歌声が聴こえ始めます。それは毎年11月に行われる合唱コンクールに向けて準備が始まった証。朝から放課後まで生き生きとした歌声が響き渡ります。クラス一丸となって自分たちの思いを届けたい。そのために歌詞の意味を考え、言葉の持つ力や美しさを感じ、どのように歌えば自分たちの合唱・音楽がよくなるのか学び、練習に励んで深めていきます。クラスで一緒に作り上げるからこそ、声を合わせて素敵なハーモニーを奏で、本番に向け大きく成長していきます。生徒たちの表情は真剣そのもの。その姿は聴いてくださる方にたくさんの感動を届けています。



WOWプログラム

本校は普段の授業の枠を飛び越え、「ホンモノに触れる体験」を大切にしています。学校で学んだ知識をつなぎ合わせて教室の外に飛び出して活用する場、それがWOWプログラムです。実体験を通して「WOW!」と驚き、楽しく学べる機会を数多く提供し、生徒のワクワクを育成します。「Zoomを使って世界中の人達と英語を通してつながる」「護身術を体験する」「英語で落語を体験する」「世界に一つの自分だけのオリジナルアクセサリを作る」など、さまざまなプログラムに参加して好奇心旺盛に学んだ分だけ、見える世界が広がります。WOWプログラムは生徒たちの希望やニーズに合わせて、日々新しいプログラムを生み出していきます。



〔過去の実施例〕

実施プログラムは年によって変わります。

- 知って得するお金の話
- チアダンス体験
- 祇園祭ちまき作り体験
- 水引きアクセサリを作ろう
- 琵琶湖でSDGsを学ぼう
- 鑑識のお仕事体験
- 虹色チョコレートを作ろう
- 手話を楽しもう
- 無電源ラジオを作ろう
- プロの小説家から学ぶ創作術
- 挑戦！ピワイチ
- プログラミングを学ぼう
- ベースボール5を体験しよう
- インドの染色技法ブロックプリント体験
- 造幣局を見学しよう
- 京鮎の製法を学ぶ
- 廃棄野菜からできた絵の具でクリスマス飾りを作ろう
- 夢と挑戦する勇気がふくらむ北海道理科研修
- そうぞう力と感性を磨く屋久島理科研修
- 大相撲を観覧し伝統・文化を学ぼう
- 本気の社会見学 中部地方のものづくりを学ぼう



WOWプログラムレポート

夢と挑戦する勇気がふくらむ

北海道理科研修

2024年3月に大人気WOWプログラム、『夢と挑戦する勇気がふくらむ北海道理科研修』を実施しました。前回の屋久島理科研修からのリピーター6名を含めた過去最多の41名が参加しました。

メインプログラムの1つ目は、植松電機にて代表取締役の植松努氏の講演、手作りロケット作成、打ち上げを行いました。2つ目は旭山動物園を訪れ、バックヤードツアーや行動展示などの解説をしてもらいました。その他にも、立命館慶祥中学校・高等学校見学とサイエンスショー、旭川市科学館と天体望遠鏡見学、休憩時間の雪合戦、北海道ならではの食事やお土産購入など、ボリュームのある特別な3日間を満喫しました。今回学んだ41名が、先輩たちが成し得たように、この機会をスタートとして夢と希望、挑戦に満ちた日々を過ごし、どんな未来をつかみとるのか楽しみです。



世界に通用する知性と
探究心を育む

高等学校

S E N I O R H I G H S C H O O L





IG course

高校コース

学問や社会に対する視野を広げ、
大学の学びにつながる探究心を育成する



自ら学び、行動する Active Learnerを育成

3年間のコア科目を通して、「学ぶ意義・学び方」「他者との関わり方」「自ら問いを立てること」など、学びの根源となるマインドとスキルを育て、大学での学びや将来の進路につなげます。高校3年生では学びの集大成として、課題研究に取り組みます。

POINT 01

理系の勉強だけで 歴史に残る建物は造れますか？

建築士をめざしている場合、工学や材料について学ぶことは必要です。しかし、芸術や歴史に対する理解なしに、理系の勉強だけをやってきた人がいい建物を造れるでしょうか。法律家が薬事裁判を担当するために、法律の知識だけでは不十分でしょう。化学や生物の基礎理解が必要です。環境問題を解決するのはサイエンスの力ですが、そのための予算をどのように準備するか、どのような決定プロセスを経て合意形成に導くのか、経済や政治の力なしには解決できません。

本校では全学年において文理の垣根をなくし、自由に選択科目を選べるカリキュラムへ移行しました。科目選択のパターンは21万通りに及び、実際に生徒の選択パターンは271種類になっています。同じカリキュラムを選択している生徒はほとんどおらず、自分だけの学びで自分だけのキャリアをめざします。

POINT 02

問いから広がる世界

「自分が創りたいのはどんな世界だろう」という問いが自分の将来を考えることにつながります。そして「解決されることを待っている問題や課題がある」ということへの気づきが、その問題の解決への第一歩になります。

私たちは「問いを立てる力」にこだわったカリキュラムを開発してきました。その中核にあるのがコア探究（総合的な探究の時間）です。コア探究では問いを立てることから始まり、自分にとって大切な課題（マイテーマ）の設定へと学びを進めていきます。最終的には学びの集大成として、論文やプロジェクト、起業プラン作成などさまざまな形で作品を残し、マイテーマを通じて社会とつながっていきます。たとえば「SDGs×宇治橋通商店街」というテーマで、実際に商店街の方と協働で持続可能な地域開発に取り組むなど、かつては高校生の学びの範疇外であった取り組みに挑戦する高校生が、続々と生まれています。

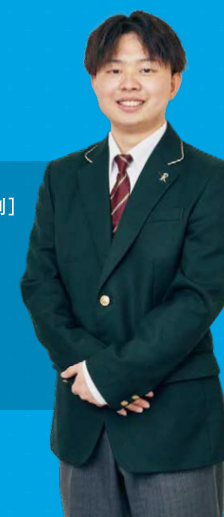
Student's Voice

僕は立命館大学の理系学部に進学をしたいと思っているので、理系の科目を選択しています。IGコースでは第2外国語やプログラミングなどといった、自分が本当に学びたいと思う授業を選択することができます。さらに、IGコース特有のコア探究と言う授業では自分の興味関心に合わせて、社会の課題を解決する論文の執筆、プロジェクト企画運営、実験などを行うことができます。立命館宇治では授業後などに先生に質問をしやすい場所や雰囲気があるので、周りの人達に学業で遅れを取ってしまう心配がないというのも魅力のひとつだと思います。

【文理を越えた多彩な選択科目の例】

- 物理基礎
- 物理探究
- 化学基礎
- 化学総合
- 中国語Ⅰ
- 数学Ⅲ、B
- プログラミング

若狭 律さん
立命館宇治中学校出身



【文理を越えた多彩な選択科目の例】

- 倫理
- 化学基礎
- フランス語Ⅰ
- 日本語Ⅱ＋数学総合
- 文化探究（人間文化）
- 世界史
- フランス語Ⅱ

森本 真彩さん
アムステルダム日本人学校出身



私は、これまでの経験から海外の方とコミュニケーションをとることの楽しさに気づき、他言語も学習したいと考えフランス語の講座を選びました。0から他言語を習得することはとても難しいですが、英語と似ているところを発見できたり、自分で文を作ることができたりした際にはとても嬉しいです。

私は、将来海外の方と一緒に働けるような職場で働きたいと考えています。IGコースでは進学したい学部に関連した授業を選択することができ、また将来に必要なか否かだけではなく、自分の本当に勉強したい・興味がある教科を選択できるところに魅力を感じています。

自分の人生と教科学習を重ね合わせる体験

English in Media

映像で広がる創造力：英語で発信するメディア・リテラシー

高校生のほぼ全員がスマートフォンを持ち、SNSに動画を投稿することは当たり前、映像を用いて世界各国の人と即座につながることをできる時代に、英語を用いて“発信する力”が求められています。本授業では、映画やニュース、CMといった素材を用いて、正確にメディアを読み解く力と発信者としての想像力(メディア・リテラシー)を身につけるとともに、映像制作や翻訳、英語落語などを通して、自分の力で考え、新しいものを生み出していくクリエイティビティーを養います。また、「良い作品」にはさまざまな人の創意工夫が盛り込まれているものです。チームメンバーとの議論を通してより良い作品を作れるようなコミュニケーション能力、プロジェクトを期限までに仕上げる計画実行力なども身につけていきます。



コア探究

全員が挑戦！探究で育む未来の創造力

高校1年生で入学後に発表される時間割。英語や数学など、よく知った科目の中に「コア」「CSL」という得体のしれない科目があります。はじめはよくわからないこの科目が、カリキュラムのコア(中心)で、未来につながる学びだということに徐々に気づいていきます。「与えてもらうお客様から脱却して、何かを生み出せる生産者になろう！」コア探究の初回の授業で強調されるこの言葉は3年間繰り返し伝えられます。

1年生では大人が本気で探究していることなどを教材に探究的な学びの土台を作ります。働く意味や学ぶ意味を考えるなどキャリア教育の視点も大事にしています。2年生では論文作成の基礎や進路探究、プロジェクトを考える体験などをしながら自分が探究したい課題を設定します。そして大学につながる学びの集大成が3年生。3年生では自分が探究したい課題を深め、プロジェクトや論文などさまざまな方法で表現します。昨年度の探究課題としては、「なぜ日本にブラック企業ができてしまうのか」「REBORN～風呂敷で過剰包装をなくせるか～」などがありました。探究を通して学校内外のさまざまな大人と関わる生徒も少なくありません。



科学と人間生活

Science for ALL すべての地球市民に必要な科学

「科学を学ぶ意義は何か？」みなさんは、この問いにどのように答えるでしょうか。科学と人間生活では生きる力を育み、人生を豊かにすることを目的とした科学「Science for ALL」をコンセプトに授業を行なっています。すべての授業は実験・実習に基づいて行われ、科学的なものの見方を養います。また、物理・化学・生物・地学それぞれの科目における身近な科学的現象を取り上げ、生きていくために必要な科学の習得をめざします。科学と人間生活を通して、これからの地球市民に必要な科学の素養を身につけます。



Well-being

世界の当たり前を見つめ直す

社会のあり方が大きく変わっていく現代では、自分自身で課題をみつけ、その改善に向けて探究し続けることが必要とされています。なぜ戦争はしてはいけないのでしょうか。なぜ貧困問題は解決されるべきなのでしょう。ウェルビーイングとは、個人を取り巻く環境が持続的に良好な状態であることを指します。世界で暮らす人々のウェルビーイングを基準に問題をとらえることで、個人の責任ではなく、当たり前だと思っていた世界のあり方をみつめ直すことができます。世界の課題に関する体験型のワークショップやグループワークを通して、「ウェルビーイングな世界とはどのような状態か」という問いに一人ひとりが向き合います。どのような世界をめざすべきなのか、そのために自分たちにどのような行動ができるのかを探究します。



プログラミング

もっと楽しく、もっと便利に！～プログラミングで切り開く未来～

小さな頃から今まで、たくさんのゲームをプレイし、いろんなアプリを使って、楽しい時間や便利な時間を過ごしてきました。そんな私たちには、コンピュータを使った誰にも負けないアイデアがあります。このアイデアを実現できれば、もっともっと楽しい世界を、便利な世界を実現できると思います。だからやってやろう「プログラミング」、夢を形にすることに挑戦しよう。私たちには、未来が見えています。プログラミングを学ぶことで、世界を変える力を手に入れるのです。



文学総合

文学とはなにかー「文学」で「探究」する学びー

今、社会では「答えのない問いに立ち向かう力」が求められています。文学総合では、古来より人々のそばで人々に愛されてきた文学作品を素材とし、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「表現」のサイクルをまわしながら、ただ「作品を読解する」だけではなく、「多角的に考察する」ことを重視します。人々はなぜ文学を愛し、育んできたのでしょうか。自分や社会、学問とのつながりをもとに「文学とは何か」を自らの視点で定義する中で、社会で求められる探究力を育成していきます。





IM course

高校コース

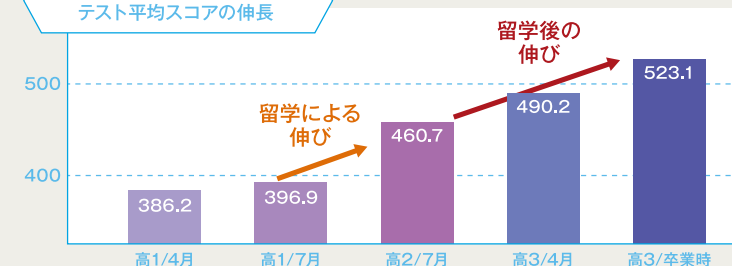


TOEFL ITP®テスト平均スコアの伸長

高校入学時に英語が苦手でも、学習への意欲があればIMコースに適應できます。まずは、ホームルームや一部の科目を英語で学ぶことからスタートし、帰国後はイマージョン授業*でブラッシュアップ。IMコースでは、英検準1級レベルに相当するTOEFL ITP®テスト550点を目標としており、3年生には600点以上を取得する生徒もいます。

*イマージョン授業とは、英語で行われる授業のことです。

高校3年間のTOEFL ITP®
テスト平均スコアの伸長



北半球プログラム

高校入学時点ですぐにでも留学ができるレベルの英語力があり、早く出発することを希望する場合は、高1の7-8月から高2の6-7月までの留学となります。入学してすぐに留学が始まるので、英語力に加えて、高い自律性をそなえ、異文化に適應していく能力が求められます。留学先はカナダになります。

南半球プログラム

入学後に時間をかけて留学準備をする場合は、高1の1月から高2の12月までの留学となります。入学から約半年かけて現地での授業についていけるだけの語学力を鍛えます。また、異文化で適應して生活していく能力も身につけていく必要があります。留学先は南半球(オーストラリア*・ニュージーランド)になります。

*オーストラリアに留学する場合、中学2年次2月以降の英検準2級の2040点以上の取得が必要です。

帰国後の学び

いずれのパターンでも、帰国後はIM(イマージョン)授業*を履修します。受験時の選択により、帰国後にIGコースへのコース変更も認められます。帰国後にIGコースで数学・理科の専門科目を履修希望する場合は、カナダへの7ヶ月留学となり、帰国後(高2の4月以降)に理・数の科目を履修習得することが可能です。

Pick up!

GLS

Global Leadership Studies

留学プログラムやイマージョン授業と並行して、探究科目としてグローバルリーダーシップスタディーズ(GLS)を展開しています。GLSではIMコースの3年間のカリキュラムとリンクさせ、「世界で起きていること」や「自分のやりたいこと、学びたいこと」に向き合い、変化の速いこれからの社会で逞しく生きる力を育むと同時に、社会へ貢献する精神と物事を生み出す力を持った国際人の育成をめざします。



GLSの成果をSGH全国高校生フォーラムで発表。
2年連続で生徒投票賞を獲得。

1年間の留学とイマージョン授業で 未来のグローバルリーダーを育てる



留学計画

IMコースの留学は、留学前の英語力、帰国後の進路希望などによって【北半球】、【南半球】、2つのプログラムがあります。どのプログラムで留学するかは、本人の希望を担任や担当者がヒアリングしつつ、最適な留学プログラムを生徒ごとに決めていきます(費用は留学先によって異なります)。

いずれのプログラムであっても、留学先では1家庭につき1人でホームステイをし、一つの高校には本校生徒が1名しかいない環境で学習します。また、海外での生活を通して異文化を理解し、社会の多様性を体験します。現地学校での履修を本校での教育課程に当てはめるので、3年間の卒業が可能です。

留学も含め、3年間で卒業

帰国後のプログラム

※高校入試出願時に選択します

留学IMプログラム … 帰国後、IMコースを継続してイマージョン授業を履修

留学プログラム … 帰国後、IGコースで授業を履修

●留学IMプログラムの例

	1年生			2年生			3年生		
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
北半球	留学準備			留学(カナダ)			IM(イマージョン)授業		
南半球	留学準備			留学(オーストラリア・ニュージーランド)			IM(イマージョン)授業		



カルチャーアイスバーグ

カルチャーアイスバーグとは、「文化の氷山」の意味です。本校の留学プログラムは、表面的に見える一部の文化だけでなく、むしろ見えない部分を理解するためにあります。英語力を向上させ、実際に英語を使って多くの人とコミュニケーションを取ること、その見えない部分が徐々に分かってきます。IMコースでは、留学経験を最大限に生かすために、留学の事前事後の準備と指導を大切にしています。異文化を理解し、その架け橋となる真の国際人の育成をめざしています。

CULTURE ICEBERG

海外留学レポート



カナダ

CANADA

高校2年
末松 ななみさん

留学に行こうと思ったきっかけはなんですか？

小さい頃から英語のミュージカル劇団に入っていたので、たくさん英語の曲を聴いていた影響で英語に興味があったからです。また、将来世界で活躍できる俳優になることが夢なのでその第一歩として、留学して英語を上達させたかったのはもちろん、視野を広げたかったからです。

英語力の向上を
どのように実感しましたか？

現地に到着した時には、自分の英語に自信がなく、友達と話すことも怖かったです。しかし、数ヶ月経過した頃から、友達との会話がスムーズになってきた実感がありました。最近では、友達やホストマザーから、「話をする時に頭で文を考えることなく、思ったことをそのまま英文にして言うことができるようになったね。」と言われ、嬉しく思いました。

現地の生活(授業、課外活動、ホストとの交流等)で
楽しかったことや感じたことは何ですか？

学校のミュージカルのオーディションに合格し、本番の舞台に立てたことが何よりうれしかったです！他にも、ダンスチームの一員として、大会で演技をしました。学校の授業の中に舞台芸術があり、ダンス、歌、演技について指導を受けることができます。このような多くの挑戦をする機会に感謝です。



オーストラリア

AUSTRALIA

高校2年
林 幸星さん

留学に行こうと思ったきっかけはなんですか？

僕が小学5年生の時、僕の兄が立命館宇治高等学校に通っており、兄の友達がIMコースで留学をして人生が変わったという話を聞き留学に興味を持ち始めました。その後僕も立命館宇治中学校に入学をして、校内で頻繁に行われる英語圏の方と交流するイベントなどを通して日本との文化や考え方の違いがあることに気づき、その違いを異国の地で体験しどちらが自分に合っているかを知りたいと思い留学しようと決めました。

留学前の立命館宇治での
学びはどうでしたか？

IMコースでは、留学前にIM総合という授業があります。そこでは、留学に関する事前学習のみならず、日本文化を見つめ直す時間があります。例えば、座禅や茶道などの自国の文化を体験することで、日本文化の素晴らしさを再認識できました。

後輩たちへ留学の魅力を
教えてください。

留学生活では楽しいことばかりではなく、辛いこともあります。それでも毎日勇気を出して、目の前の出来事に挑戦をして飛び込んでいけば、全てのことが良い方向に進んでいくと思います。留学を通して、挑戦する大切さを学びました。



ニュージーランド

NEW ZEALAND

高校2年
泉本 孔希さん

留学に行こうと思ったきっかけはなんですか？

留学先で実用的な英語に触れ、英語を話せるようになりたかったからです。また、まだ経験したことのない異文化に触れてみたいという気持ちも強くありました。多民族国家と呼ばれるニュージーランドで、マオリなどの文化を体感したいと思っていました。

留学を経て成長したと
思うことは何ですか？

自分との向き合い方が変化したと思います。日本では、勉強や部活動などで忙しく、日常生活の中で「他人との競争」という場面が多くありました。留学が始まり、時間に追われることが少なく、自分と向き合う時間が増えました。自分と向き合うことで、自分の新しい側面を発見することができました。

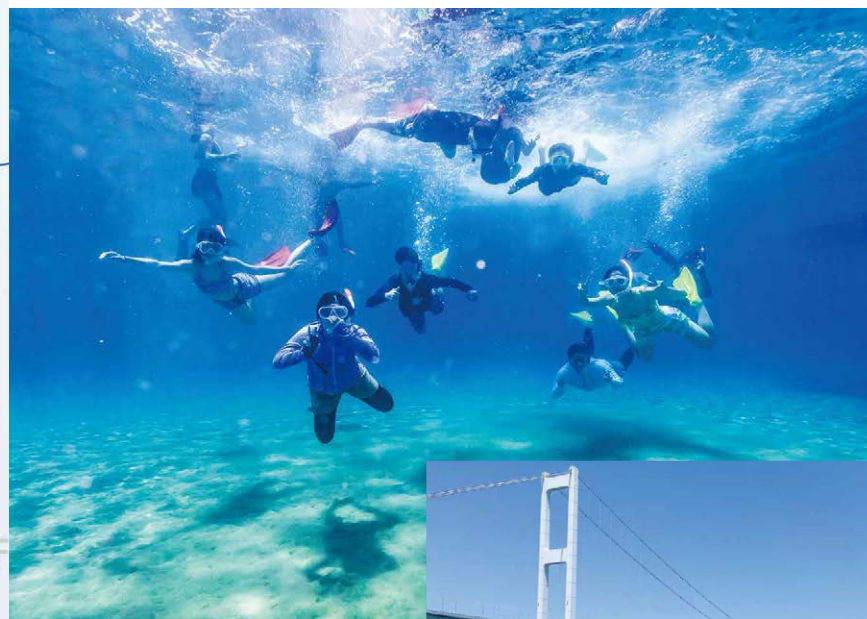
今後の抱負を
聞かせてください。

自分の大きな夢や、そのための小さな目標に向かい1日1日に感謝し、全力で楽しみ、学び、異文化に触れ、自分の今後の未来につながる貴重な経験をしていきたいです。



IB course

高校コース



IB EVENTS

IBコースでは独自にさまざまなプログラムを用意しています。父島海洋研修旅行は約1週間のプログラムです。日本で最も遠い島のひとつである父島を訪れ、ウミガメの保護を支援するボランティア活動に参加します。絶海の美しさを体験しながら、海洋研修ができるこの貴重な機会は、多くの人が得られることではありません。

しまなみ海道サイクリングは、瀬戸内海に浮かぶ島々の美しさを満喫できる3日間にわたるサイクリングの旅です。参加する生徒たちは約100kmの道のりを走破します。道中で、神社巡りをしたり、塩キャラメル作りを体験したりするユニークなイベントです。

Pick up!

学内外での行事や活動を通して、知識や思考力、リサーチ力を習得

IBコースでは、びわ湖や宇治市内の文化施設をめぐる行事を毎年行なっています。ほかにも京都・宇治という立地を活かし、京都の伝統産業体験や寺社・仏閣でのボランティアをしたり、日本の文化に親しむあらゆる活動を実施。卒業生は、世界中で活躍しています。



高校レベルを超越した世界基準の探究学力で海外名門大学への進学を実現



世界水準の探究学習で、海外名門大学へ進学。

世界中の大学への出願入学資格を得られる国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)に基づいて、1年生から国語以外の全教科を英語で学習。日本の高校レベルをはるかに超えた世界水準の探究学習によって、海外大学での学問研究にも耐えうる英語力、知力、探究心を育てます。

コースカリキュラム例(2023年度入学生)

- Japanese A Literature SL/HL
- Japanese B SL/HL
- English A Language & Literature SL/HL
- English B SL/HL
- Business Management SL/HL
- Economics SL/HL
- Global Politics SL/HL
- History SL/HL
- Biology HL
- Chemistry SL/HL
- Environmental Systems and Societies SL
- Physics SL/HL
- Math AA SL/HL
- Math AI SL
- Visual Arts SL/HL

※カリキュラムは、変更する場合があります。



IBとはInternational Baccalaureateの略で、日本語では国際バカロレアと訳されます。日本には日本の教育プログラムが存在するのと同様に、世界にはその国独自の教育プログラムがありますが、国際バカロレアはさまざまな国で共通に行われている教育プログラムです。IBコースで所定の成績をおさめた生徒は、国際バカロレア(IB)資格と日本の高等学校卒業資格の両方を取得できます。

学習者像に基づく全人教育で真の国際人を育てる

IBコースでは、「Learner Profile(学習者像)」を定め、3つの核(TOK、CAS、EE)と6つの科目群を通して全人的な教育を展開しています。知力だけでなく、探究心や進取の精神を育成します。TOK(知の理論)では、知識の習得方法や活用方法、さらには知識の価値について学習し、知的探究への意識を高めます。CAS(創造性・活動・奉仕)では、生徒自身が社会奉仕について考え、活動を計画し、ボランティア活動などに取り組みます。またEE(課題論文)では、自分で決めたテーマで研究し、論文を完成させます。



国際バカロレア・ディプロマプログラム[IBDP]



英語 [English]



数学 [Mathematics]



ビジネス [Business Management]



化学 [Chemistry]



物理 [Physics]



美術 [Visual Arts]

TOK 知の理論



TOK (Theory of Knowledge) って何だ?

TOKは特定の知識体系を身につけるための授業ではありません。究極のテーマとしては、「私たちはどのようにして物事を知るのか」というものです。理科や社会、芸術など「知識の領域」が異なれば、知識を得る方法も異なるため、それぞれの「知識の領域」を比較・対比します。生徒たちに課せられるテーマは、毎年変わりますが、例えば次のようなものです。

「実践しなければ知識に価値はない」(アントン・チューホフ)という主張に、どの程度同意するか。2つの「知識の領域」に言及しながら答えなさい。

非常に抽象度の高い問いですが、生徒たちはこれに類する幾つかの問いから一つを選んで、「エッセイ」と「プレゼンテーション」を行わなければなりません。このような作業を通して、自らの知識の限界を理解し、さらに深く世界を理解するための態度を身につけることができます。

CAS 創造性・活動・奉仕

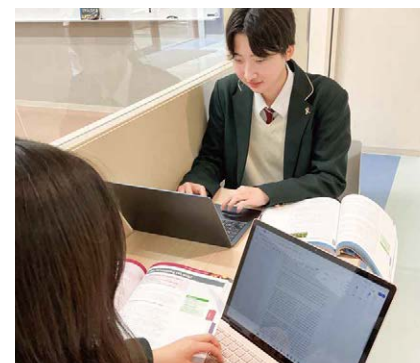


CASって何だ?

CASとは、Creativity(創造的活動)、Activity(身体的活動)、Service(奉仕活動)の頭文字を取ったものです。生徒は学業と並行して、それぞれのカテゴリーの課外活動を自分自身で計画・実行します。IBでは学業だけではなく、社会性や創造性、自身の健康も大切です。活動は、個人やグループで行いますが、イベント運営、ムービー制作、ビジネスコンテストへの参加、地域のボランティア活動など、多岐にわたります。

生徒の活動の幅を広げるために、先生もハイキングやサイクリング、ガーデニング、京都の伝統産業体験、自然科学調査などイベントを開催し支援しています。生徒同士がアイデアを出し合い、ぼんやりとしたものを形にしていける取り組みです。

EE 課題論文



EE (Extended Essay) って何だ?

EEは生徒がそれぞれ履修している科目から、1科目を選び研究論文を書くというものです。関心あるトピックについて個人研究を行い、研究成果を英語で4,000語の論文として提出しなければなりません。個人研究では理科室での実験を伴うものばかりではありません。人が歩くときの足の動きを数学的にモデリングしたり、文学作品の分析や、企業の社会的責任について考察したりとテーマは多様で広がりを持っています。授業で学んだことをそれぞれの生徒が現実世界に応用していくことが求められ、このことが大学での専門的な学びにつながるのです。

INTERNATIONAL BACCALAUREATE

豊かな時間

本校の課外クラブ活動の歴史は深く、前身の宇治高校では女子ソフトボール部・陸上部・レスリング部・剣道部において国民体育大会・インターハイなどで全国優勝者を輩出し、本校課外活動の礎を造ってきました。その歴史を受け継いで立命館宇治高等学校では、同競技に加え柔道部・アメリカンフットボール部なども、全国優勝することになり、卒業生にはオリンピック選手や国際大会優勝者など社会人でも活躍している方が多数います。硬式野球部・バトントワリング部・チアリーダー部も全国大会で活躍するなど、非常に高いレベルで活動し学校全体で応援をしています。

全国の大会で勝つことだけに注力するのではなく、目標に対して今何ができるのかを自ら考え抜き、弛まぬ努力を日々重ねる先にこそ真の勝利があることをめざし、伝統を受け継ぎながら活動しています。

第54回
全国高等学校アメリカン
フットボール選手権大会 優勝

目標に向かって
仲間との絆を育む

Activities

共に挑む

第105回
全国高等学校野球選手権
記念大会 出場

令和5年度
全国高等学校総合体育大会
サッカー競技 京都府予選 準優勝

2023年度 女子第35回
全国高等学校駅伝
競走大会 3位

Sports

01



陸上競技部 (部員数37名)



ラグビー部 (部員数26名)



フットサル同好会 (部員数45名)



ダンス同好会 (部員数69名)



硬式野球部 (部員数101名)



女子硬式テニス部 (部員数34名)



男子硬式テニス部 (部員数33名)



アメリカンフットボール部 (部員数77名)



サッカー部 (部員数89名)



ラクロス部 (部員数42名)

※クラブ活動の運営形態は変更になる可能性があります

Sports

02



男子バレーボール部 (部員数10名)



柔道部 (部員数6名)



男子バドミントン部 (部員数53名)



男子バスケットボール部 (部員数29名)



剣道部 (部員数27名)



男子ハンドボール部 (部員数35名)



女子バレーボール部 (部員数28名)



女子バドミントン部 (部員数40名)



女子バスケットボール部 (部員数25名)



※本校にはプール施設はありません

水泳部 (部員数7名)

※クラブ活動の運営形態は変更になる可能性があります

Culture



吹奏楽部 (部員数59名)



華道部 (部員数18名)



茶道部 (部員数12名)



バントワリング部 (部員数24名)



書道部 (部員数14名)



チアリーダー部 (部員数28名)



自然科学部 (部員数11名)



演劇部 (部員数15名)



美術部 (部員数12名)



写真部 (部員数13名)



文芸部 (部員数8名)



放送部 (部員数11名)

※クラブ活動の運営形態は変更になる可能性があります

One Day

高校編

立宇治生の1日

登校



8:40

AM
授業



8:50

昼休み



11:40

寮での
朝食



7:30

登校



8:40

AM
授業



8:50

PM
授業



12:50

クラブ



16:00

ブレザー

ゴールドをアクセントカラーに、高級感と独自性を表現したデザイン。エンジのストライプネクタイが全体を引き立てます。

スラックス

グローバルデザインを意識したグレーの細かいチェック柄スラックス。

中谷 悠人さん
精華町立精華南中学校出身

ブレザー

ゴールドをアクセントカラーに、高級感と独自性を表現したデザイン。美しいシルエットを追求した着心地のよさが特徴。

ネクタイか
リボンを選べます

細谷 心路さん
シンガポール日本人学校中学部出身

スカート

グリーンとエンジのチェック柄スカートで明るく元気なイメージを表現しています。

※スラックスも選択が可能

昼休み



11:40

PM
授業



12:50

下校



19:20

クラブ



16:00

寮での
自習



21:00

Rits Uji高 三大祭

限りある時間を最大限に活かし、
互いの絆をより深める

京都の三大祭と言えば、葵祭、祇園祭、時代祭ですが、立命館宇治の三大祭と言えば、春の体育祭、秋の興風祭、冬の学術祭！この三大祭がスクールライフを盛り上げてくれます。まずは体育祭。全学年が5つの「団」に分かれ、団が丸となって優勝をめざしてさまざまな競技に挑戦します。立命館宇治一の俊足を決める「韋駄天競走」、それぞれの団の応援団を中心に作り上げる「応援合戦」など、見どころたくさんです！秋の興風祭は、中高6学年が趣向をこらした「おもてなし」で皆様をお迎えする学校文化祭。演劇や参加型イベントなどの学級発表、有志による野外ステージなど、個性あふれる企画で盛り上げます。冬の学術祭は、立命館宇治アカデミズムを象徴する学びの集大成。芸術や探究の学びの成果を披露します。

※各行事の実施時期は変更になる場合があります。



興風祭

知恵とアイデアと体力と団結と、クラスが持てる力を全て集めて、展示や演劇などのパフォーマンス！



学術祭

体育、芸術、理科、社会など、各教科で1年間かけて学んできた創作や研究成果を発表するアカデミズムの集大成です。



体育祭

5つの団に分かれて、覇権を争います。応援団長として団を率いることは、1年生の憧れでもあり、2年生の目標でもあります。



全国高校生SRサミット FOCUS

社会課題の解決をめざしたプロジェクトを行っている国内外の高校生が集い、社会人や国内外の大学生の助言を受けながら互いのプロジェクトを発展させます。高校生やプロジェクトが混ざることで、新たな視点や発見の化学反応が生じるのがFOCUSの魅力です。



Global Youth Forum “SURVIVE!”

2023年、国内外の高校生と共に『もしもSDGsが達成されない未来や世界が来たら』というテーマについて話し合う国際会議を開催しました。不明瞭な未来に誠実に向き合い、2030年以降をたくましく生きるために、国内外の高校生と協働してアイデアを考え、社会に強いメッセージを生み出しています。

国際色豊かな プログラム

本校は、2019年度から文部科学省の『World Wide Learning (WWL) コンソーシアム構築支援事業』の拠点校に採択されました。Society5.0にむけて世界を舞台に時代を変革していける人材の育成をめざして、新しいカリキュラムの開発、高校生主催の国際会議などを推進してきました。産業界や大学の支援を得て、国内外の高等学校を結んだAdvanced Learning ネットワーク (ALネットワーク) のもとで、未来に立ち向かう高校生の育成をリードしています。



Ritsumeikan Uji MUN

模擬国連は参加者が国連参加の各国の大使となり、国際問題を各国大使の立場から議論をすることで、国際問題の複雑さを理解しながら多角的視点で交渉する力、論理的思考力、英語力の向上をめざします。



高3 研修旅行

コースごとに目的にそって体験する研修旅行

立命館宇治の研修旅行は、「思いづくり」「観光」がその目的ではありません。所属するコースによって内容や行先は異なりますが、自分で国際社会に目を向け、自分たちの未来を考えるための貴重な体験です。

IGコースでは、ホームステイ中心の語学研修のほか、自然環境や社会課題について考えるテーマ型研修など、ニーズに応じたプログラムを企画します。

IMコースでは、カンボジアに1週間滞在し、現地企業でインターンシップを経験する中で、課題解決力を磨きます。

IBコースでは、毎年生徒が中心となって旅行者と打合せをしながら、予算・行程を作り上げていきます。

※研修旅行の行先・内容は変更することがあります。



GCP

グローバル・チャレンジ・プログラム

自ら人生を切り開き
社会貢献できる人へ

GCP(海外派遣プログラム)とは、自ら人生を切り開き社会に貢献できる人材育成を目的として、国際会議・ワークショップ・ボランティア活動・スタディツアー等への参加などさまざまな国際交流の機会を幅広く本校中高生に提供するプログラムであり、多くの生徒に国際経験を積ませるプログラムです。

このプログラムは、既成のパッケージ・ツアーと異なり、本校教員の情報網や人脈をもとに、手づくりで企画・実施されています。昨年は、シンガポール、ラオス、フィリピンで実施しました。



研修例：シンガポール

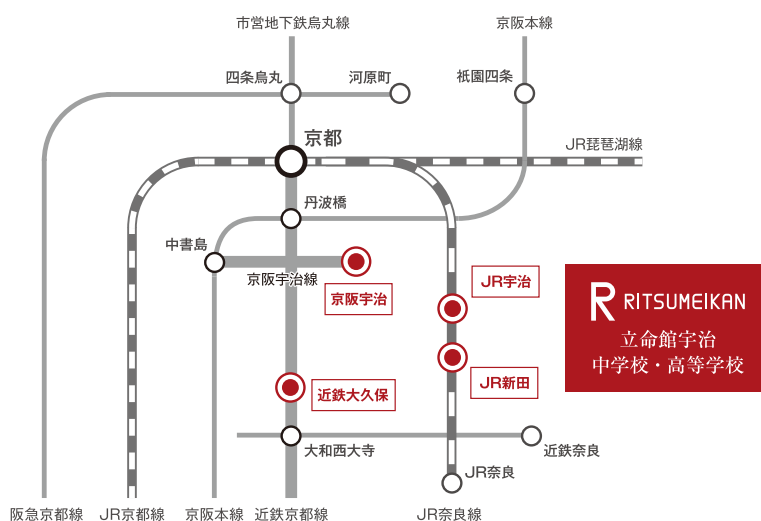
このプログラムでは、シンガポール国立大学にて世界中の学生リーダーたちが、魅力的なアクティビティを通して、異文化交流や協力の能力を高め、グローバルリーダーとしての力を養います。また、参加者は多民族・多言語・多文化社会であるシンガポールについて、さまざまな角度から理解を深めることができました。



研修例：フィリピン

世界における貧困の現状を知り、未来のグローバルリーダーとしての知見を得ることのできるプログラムです。交流会を通してアジア各国の若者同士のネットワークをつくることができました。アジアにおける英語コミュニケーションの重要性を感じ、さらに今後の学習へのモチベーションも高まりました。

ACCESS MAP



バスで

- 京阪宇治駅から ……約**20**分
- JR宇治駅から ……約**15**分
- JR新田駅から ……約**10**分
- 近鉄大久保駅から ……約**10**分

〒611-0031 京都府宇治市広野町八軒屋谷33番1
TEL : 0774-41-3000 FAX : 0774-41-3555

33-1 Hachikenyadani, Hirono-cho, Uji-city, Kyoto 611-0031 Japan
TEL:+81-774-41-3000 FAX:+81-774-41-3555

